ヘルスツーリズム研究会　講演内容まとめ

― 特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構 ―

（発表日　第 1 回研究会　2005 年 11 月 25 日）

1. 講演タイトル：トラベルメディスンについて

2. 所属機関および発表者名：日本渡航医学会　理事　大越　裕文

3. 講演概要　※記述はフォントサイズ（ＭＳＰ明朝・11 サイズ／50 文字×30 行以内、「である」調）でお願いします。

旅行は、非日常の体験を通して、われわれを精神的にリフレッシュしてくれる。しかし、その反面、環境の変化などにより種々の健康リスクも生じることになる。欧米の報告では、熱帯地域に1カ月間滞在すると何らかの健康問題が 50ー60％の旅行者に発生し、8％の旅行者は医療施設を受診し、0.001％の旅行者は死亡するとされている。特に、心臓疾患などの持病を持っている旅行者や高齢者は健康問題のリスクが高い。今後、高齢旅行者が増加すると予測されていることから、旅行者の健康問題に対する対策はますます重要になっていくであろう。旅行中の健康問題を予防するためには、事前の健康状態の評価や旅行先の環境に合わせた予防策を講ずることである。しかし、本邦では、未だ旅行中の健康リスクについては十分に理解されておらず、海外の医療関係者から日本人旅行者はもっとワクチンなど予防をするべきであるとの非難を受けている。事実、海外で多くの日本人が病気で亡くなられており、2005 年度の外務省海外邦人援護統計では、海外での邦人死亡者は615名で、うち396名は死亡原因が病気であり、その数は年々増加してきている。

旅行者の健康面をサポートする医療として、トラベルメデイスン（渡航医学／旅行医学）と呼ばれる分野がある。日本の医学界も1990年代になり、トラベルメデイスンの重要性が認識されるようになり、渡航者の疾病予防を専門に扱うトラベルクリニックの開設も都市部を中心に徐々ではあるが進みつつある。トラベルメディスンは、感染症、航空医学、登山医学、ダイビング医学、温泉医学のみならず、救急医学、公衆衛生、産業医学、産科学、小児科学などの幅広い医学分野を幅広く取り入れた疫学、予防を中心とした医学である。

トラベルメディスンの普及させることのメリットは、単に旅行者の健康リスクを小さくさせることだけではない。健康不安を持っている人たちの新たな旅行需要を喚起することも可能であり、本研究会がテーマとしているヘルスツーリズムの推進にも大きく貢献するであろう。ヘルスツーリズムは、健康の増進・維持や回復を目的として、科学的根拠に基づいたプログラムを活用したツーリズムであるが、いかに優れた健康プログラムを用いたツーリズムであっても、航空機・船などの移動中や渡航先の環境の変化に伴った健康リスクを回避ことができない。旅行に伴う健康リスクを軽減させることができるのがトラベルメディスンであり、ヘルスツーリズムにトラベルメディスンによる知見を積極的に活用すべきである。すなわち、トラベルメディスンはヘルスツーリズム成功の必須条件ということができる。

トラベルメディスンの重要性は、一般旅行者や旅行業の関係者だけではなく、医療関係者にも啓蒙する必要がある。また、トラベルメディスンの関係者は、トラベルクリニックなどの医療体制の充実、人材育成のための教育システムの構築、旅行業界へのサポートを積極的に行っていくべきであろう。

本邦にトラベルメディスンを普及させることは、旅行者の健康問題を防止するだけではなく、ヘルスツーリズムを促進することにより、国民の健康増進に寄与することになるであろう。

※参考図表・写真等はこの枠内に貼り付けてくださいますようお願いします。